

みんなECO. 東京メトロは社会環境活動に積極的に取り組んでいます



「社会環境報告書 2014」 平成 26 年 11 月 28 日発行

平成 25 年度に実施した「安心＝安全＋サービス」「社会」「環境」に対する取り組みを紹介

東京メトロ（本社：東京都台東区 社長：奥 義光）では、東京メトロの事業活動を通じた社会環境活動を多くの方々にお伝えするために、その取り組みについて幅広くご紹介する「社会環境報告書 2014」を平成 26 年 11 月 28 日（金）に発行します。

発行日から当社ホームページ（<http://www.tokyo-metro.jp/>）にて e-book 又は PDF 形式でご覧いただけるほか、同ホームページにて発送申込を受け付けます。

「社会環境報告書 2014」の概要は、下記のとおりです。

記

1 主な内容

東京メトロの社会環境活動について、鉄道事業者としての最大の使命である「安心＝安全＋サービス」、ステークホルダーとのつながりを示した「社会」、事業を通じた地球環境保全についてまとめた「環境」の 3 つの視点で記載しています。

各章では、主に平成 25 年度に重点的に取り組んだ活動の内容や実績のほか、それぞれの取り組みへの想いや考えを社員からのコメントとして記載しています。

さらに、特集では「東京メトロ“魅力発信”プロジェクト」を取り上げ、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けたプロジェクトを紹介しています。

2 形式

A4 版オールカラー

52 ページ



以 上

記事の概要

1 社会

「社会」の視点では、沿線地域・国際社会や社員、取引先、投資家等ステークホルダーとの相互関係に関する施策などをご紹介します。

沿線地域・国際社会との相互関係として、東京マラソンへの協賛、車両基地を一般公開するメトロファミリーパークの開催、地下鉄博物館の運営、福島県復興支援としての福島産直市の開催、ハノイ市都市鉄道整備事業への支援などをご紹介します。

社員との相互関係として、チャレンジングな企業風土づくりに関する社内提案制度等の施策、ワークライフバランスの推進に関する施策、ダイバーシティに基づく職場づくりや安全で健康な職場づくりに関する施策をご紹介します。

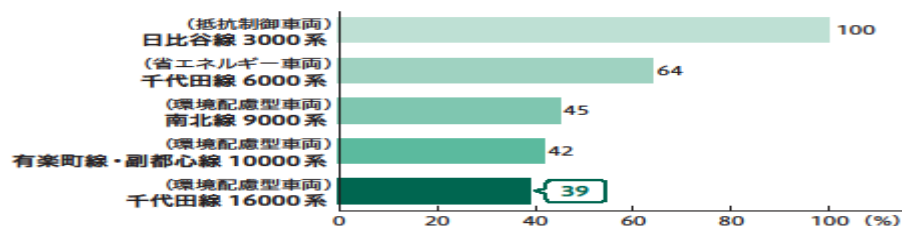
2 環境

「環境」の視点では、長期環境戦略「みんなでECO.」や環境マネジメントなどをご紹介します。この長期環境戦略では「『安全で質の高い鉄道サービスの提供』を着実に推進する一方で省エネルギー施策に積極的に取り組むことにより、2020年度の鉄道事業における総エネルギー使用量を2009年度実績より増加させない」ことを目標にしています。また、「首都東京の都市機能を支える事業展開を通じ、東京の環境負荷低減と、魅力と活力あふれる東京の実現に貢献」することを2020年度に目指す姿とし、「東京メトロ自らのエコ化」「東京メトロを使ってエコ」「沿線地域とエコ」の3つのテーマに基づき、積極的な環境保全活動を実施しています。

(1) 東京メトロ自らのエコ化

車両の走行用消費電力量を比較すると、旧型の日比谷線3000系を100とした場合、環境配慮型車両である千代田線16000系は39となり、大幅な省エネルギーをリードする車両に関する施策をご紹介します。(図参照)

そのほか、地球温暖化防止に貢献するための太陽光発電システムや地中熱利用空調システムなどの再生可能エネルギーの活用、リサイクル・リユースなどによる廃棄物削減、振動・騒音の低減などにより、環境負荷を可能な限り低減する施策をご紹介します。



車両の走行用消費電力量の比較

(2) 東京メトロを使ってエコ

バリアフリー設備整備をはじめとするお客様視点に立った「サービス」の提供により地下鉄の利便性向上を図り、より多くのお客様に安心してご利用いただくことで、環境負荷を可能な限り低減する施策をご紹介します。

(3) 沿線地域とエコ

「東京とともに成長する」との観点から、トンネル内湧水の活用、駅の緑化、植樹ボランティアへの参加など、沿線地域と連携した環境保全活動を推進していくことで、東京に集う人々の生き生きとした毎日に貢献していく施策をご紹介します。